

公共交通に関する各種調査結果のまとめ

1 市民アンケート

- 行きたい病院は、「半田病院」が多く、他はばらけている
- 行きたい商業施設は、「パワードーム半田」が多いが、全体としては近隣施設への指向が強く、バス需要は見出しづらい
- 行きたい公共施設は、全域的に「市役所」のほか、「博物館・図書館」に集約
- 運転できない人の移動に対する不満は、特に買い物で高い。買い物は自家用車依存が高く、荷物があることが主な理由
- 自家用車をやめられない理由の中で最も多い意見は「目的地に行けない」
- 現状のバス利用は僅少（日常利用=3%、利用しない=80%）で、バスの存在を知らない・最寄り停留所しか知らない人が非常に多い
- 板山地区のバス利用が多い（鉄道から遠い地域であり、バスの運行本数が多いため）
- バス利用をやめた理由は「不便になった」ことが多く、30分に1本程度の運行がないと選択肢に入らない
- バスで行っている・行きたい行き先は「駅」が多く、中部国際空港、図書館、市役所が続く
- タクシーは全く利用しないが半数、年数回が3割で、自宅と知多半田駅の利用が多い。（※高齢者も自宅、知多半田駅、病院から主に利用）
- 最寄り駅までの移動手段（乗合タクシー）については、半数に利用意向あり。支払意思額はばらけているが、駅から遠いほど高い傾向
- 市の負担は、現状サービスに対しては「高すぎる」と考える人が多く、サービスがよくなるならもっと高くしてもよい人が3割。一方、現状維持が2割、わからない人も3割存在
- 自由意見では、バス充実を挙げる人が2割以上あるが、具体的なサービスにつながる意見は見出しづらい

2 グループヒアリング

- 全体として、近隣の医院やスーパー等で日常生活は成り立つとの意見が多数
- 知多半田駅周辺への指向は弱く、半田病院への指向は根強い
- 北部地域は、阿久比駅・東浦駅・亀崎駅への指向が強い
- 乙川駅勢圏は、乙川駅への指向であり、他地域への移動ニーズは弱い
- さくら学区は、半田駅・知多半田駅への指向
- 岩滑学区は、半田口駅から半田病院方面、中央道西側の半田1区は不便であり切実
- 南部地域は、青山駅への指向が強い。花園・鴉根線への認知度が低く、利用意向がない

4 路線バス利用者調査（OD調査）

- | | |
|-----------|--|
| 常滑線 | <ul style="list-style-type: none"> • 半田方面より常滑方面への流れが強い（常滑方面に便利なダイヤになっている） • 半田市内では、西板山～知多半田駅が多いが、板山地区からは常滑への流れの方が強い • 半田方面へは行き先として知多半田駅が圧倒的だが、それ以外にはないとも言える →「青山駅」や「市役所前」への延長が考えられる |
| 上池・有脇・亀崎線 | <ul style="list-style-type: none"> • 知多半田駅～向山・大池間で利用が多いが、それより先は本数が少ないため、利用も少ない面がある • 逆に、乙川駅周辺は本数があるわりに乗車が少ない • いずれの路線も終端で他の公共交通と接続しないため、先細りになっている →ここまでを幹線とし、先の部分を支線として少量輸送で本数を確保することで利用を増やせる可能性あり →JR・名鉄への乗り継ぎはほとんどないと推定される（名古屋方面と逆方向となるため）ことから、指向がある阿久比駅・東浦駅・亀崎駅へつなげることが考えられる |